

# 令和3年度 学校評価 学校関係者評価書

学校園名 三木市立広野幼稚園

## 1 学校教育目標

「生き生きと活動し、思いやりのある子どもに」

- ・やさしい子(命あるものを大切に生き物をかわいがる子・友だちと仲良くする子)
- ・元気な子(友だちと元気いっぱい遊ぶ子・はっきりと話をしあいさつのできる子) ・がんばる子(自分のことが自分でできる子・最後までやりぬく子)

## 2 本年度の重点目標

- (1) 一人一人の個性を大切に、互いに影響し合いながら共に育ち合える仲間関係の育成をめざす。
- (2) 主体性が育まれるような保育を創造し、支援の方向性や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を視点とした学びを明確にする。

## 3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
教育課程・指導	①一人一人の内面を読み取り、発達に即した支援を行う。 ②具体的な保育場面を捉え、学びや幼児理解の共通理解や振り返りを行う。 ③基本的な生活習慣を身につける。 ④給食や栽培活動を通じた食に関する指導及び食育の推進を行う。	①日々の職員会議を工夫し、保育内容や幼児の様子を振り返り、一人一人の幼児理解を深め、適切な支援や学びについて評価と反省を行い、指導の見直しにつなげた。 ②共有シートを活用し、教師間の見方の違いに気付き感覚の交流を行った。教師一人一人の見方の違いを良さとして捉え、多面的な方向から読み取りや支援ができるようにしていた。 ③個人差や発達段階をふまえ、発達に即した支援を心がけ、肯定的な言葉をかけたり、視覚支援をしたりして身につくようにした。 ④田植えから稲刈りやもみすりまで自分たちですること、日々食べているお米のありがたさを感じることができた。”ジャガイモ日記”を作成し、家庭も巻き込んだ食育の機会となった。(イチゴ、玉ねぎ、夏野菜、サツマイモの栽培等)	A	①子どもの主体性が育まれる保育を創造するには、幼児一人一人の内面を読み取る事、支援の方向性を持ちながら支援のタイミングを計り見守る事、環境構成の工夫が必要である。教師がゆとりを持って保育を行えるように資質向上に努める。 ②教師も主体的に学べるように工夫する。 ③基本的な生活習慣や食事に関する事は、家庭での生活環境も大きくかわってくるので、今後も家庭を巻き込んだ支援をしていくようにする。 ④食への興味関心が高まるような栽培計画や給食時の支援について再考する。
道徳・人権教育	①友達とのかかわりを通して、相手を思いやる気持ちや規範意識の芽生えを育てる。 ②少人数であることを利点と捉え、一人一人の良さが発揮できる機会を設定し、自尊感情を高める。 ③身近な自然や動植物にふれ、命を大切にすることを育てる。	①日常的に年長と年少の交流を行い、日々の交流活動を運動会や生活発表会でも発表することができた。クラスを超えて、お互いのことがより分かり、思いやりの気持ちやいろいろな友達とのかかわり方について学ぶ場が増えた。”ふわふわ言葉・ちくちく言葉”という言葉を用いて、言われて嬉しい言葉とそうでない言葉に気付かせていった。 ②幼児理解をしながら、その子の良さががんばりを逃さず認め、全体で紹介する機会を持った。運動会では、一人一係(マイク係・体操係等)、ジャガイモ日記の発表など、個々にもスポットが当たる機会を作っていた。また、子ども達の発想や、やってみたいという気持ちを受け止め、実現できるよう支えていった。 ③子どもたちの興味の旬、季節の旬を逃さず保育展開し、様々な生き物との出会いの中で、命を感じられるようにした。	B	①良い事も悪いことも表現し、教師が善し悪しを決めてしまうのではなく、子どもたちがお互いに気付き考え伝えられるような支援をする。日々子どもにかかわる教師自身の感性を磨き、人権意識を高めるように努める。 ②個々の表現をまずは受容し、受け止められているという安心感が持てるようにする。また、親子で関われるような機会を意図的に作り、大切にされている実感が持てるようにする。 ③旬を逃さないように、教師がよく見てよく感じて保育展開する。機会を逃さず命の大切さに気付かせていく。
特別支援教育	①一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。 ②家庭及び関係諸機関と適切な連携を行い、発達に即した支援の充実を図る。	①個別の支援計画・個人支援案を作成し、定期的な支援の見直しと共通理解を行った。また、個々や集団に合った支援グッズの工夫・環境の再構成、行事の持ち方などを再考した。 ②巡回相談・すこやか相談・講師を招聘しての園内研修会などを行い、幼児理解や支援の方向性について研修を重ねた。また、家庭での様子を聞き取り、園と家庭が一緒になって子育てできるよう心掛けた。	B	①個の成長のための支援グッズの工夫と、集団の力を最大限発揮できるような支援を心がける。 ②専門機関との連携や研修は、保育の振り返りや幼児理解、支援の方向性を確認するうえで大変重要であるので、今後も計画的に実施していく。
家庭・地域 小学校との 連携	①地域に開かれ信頼される幼稚園をめざす。 ②家庭や地域の方への情報発信と協力体制の充実を図る。 ③他校種と連携をする。	①ウサギのエサを毎週頂いたり、金魚やメダカを分けてもらったり、草刈りを手伝ってくださったりなど、地域の方から声をかけてもらう機会に恵まれ、喜びと感謝の気持ちを持つことができた。また地域の方に支えられている幼稚園であることを再確認できた。 ②降園スピーチ時、今日の遊びの様子や学びの様子について保護者に具体的に伝え、自分たちで考えて遊び学んでいくことを大切にしている幼稚園教育についての理解を深めていった。また、DVDを用いて家庭教育学級を実施し、情報モラルの意識が高まるような機会を持った。 ③未就園児や東高生との交流、1年生との昼休み交流などコロナ禍でも交流することができた。	B	①②保護者や地域の方に少しでも園の教育内容や様子を伝えられるよう、個々の連絡帳やお便り、ホームページ等で情報発信を継続して行っていく。 ③いろいろな人とかかわりは、普段見られない子どもの姿や成長を見ることができ、あこがれや意欲の向上等につながる。交流や連携をできる限り増やしていきたい。また、スムーズな就学について連携を工夫していきたい。
健康・安全教育	①危機管理マニュアルの活用と実践的な訓練を実施する。また、家庭と連携し、危機管理体制を推進する。 ②園舎遊具などの安全点検と整備、施設管理体制の充実を行う。 ③新型コロナウイルス感染症を予防するための指導を行う。	①いろいろな保育場面を想定し避難訓練を実施した。実際に地震発生時も素早く避難し、落ち着いて行動でき、日々の訓練の成果を感じることができた。 ②毎月遊具点検を実施し、今年は太鼓橋の修繕も完了した。ヒヤリハット報告を共有し、発生状況の把握、危険場所の共通理解ができた。また、未然に事故が防げるよう、常に危険に対するアンテナを高くするように心掛けた。 ③子どもたち自身が安全安心な生活へ意識が持てるよう伝えていくと、自分たちで「ソーシャルディスタンス!」と伝え合う場面も見られるようになった。高温時はマスクかけ、冬場は不織布マスクが快適につけられるように環境を工夫した。	B	①今後もいろいろな保育場面を想定して訓練を行う。命の大切さや自分の命を自分で守る意識が持てるように伝え続ける。 ②常に教師が高い意識を持って、安心安全な環境作りをする。子ども同士の伝え合いと記録を大切に、危険箇所が伝承できていくようにする。 ③毎朝の健康観察、手洗い、マスクの着用など気を抜かず継続して行っていくことと、季節や時期によって変化する感染対策を的確に把握し、感染対策を行う。

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

・評価方法は概ね適切である。  
・アンケート結果から、園に対する評価が高く、保護者が安心して子どもを通園させていることが分かる。  
  
・保護者アンケートにあった、閉園について、時代の流れとはいえ寂しいです。変わらず子ども達へのびのびと育ってくれる環境が整うことを願う。

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<p>評価Aは妥当である。 ・職員会議での情報交換や保育の振り返りは、研修として成り立っている。資質向上は数値化しにくく成果として見えにくい、今後も続けてほしい。 ・一人一人の幼児理解に努め、適切に支援し保護者にとっても安心できる幼稚園になっていることがアンケートからも伺える。 ・じゃがいも日記は親子で一緒に楽しむ機会となっている。</p>
<p>評価Bは妥当であるが、取組やアンケートから評価Aでも良いのではないかと感じる。 ・”ふわふわ””ちくちく”という言葉を使って子ども自身が気付くよう導かれていることに感心した。また、危険なこと以外はゆとりをもって見守る姿勢が評価できる。 ・年少児と年長児の関係性がとても良いことが伝わってくる。また、個々へもスポットが当たるように工夫され、支援が適切である。</p>
<p>評価Bは概ね妥当である。 ・取り組みは十分評価できる。また、保護者・教師アンケート結果からも十分満足できるものである。 ・特性やその支援は多様であり、限られた職員での対応は十分できている。</p>
<p>評価Bは妥当である。 ・降園時等のスピーチや写真で1日の様子がよく伝わる。ホームページの更新増に期待したい。 ・高校生にとっても園児にとっても良い交流になっていることが伺える。今後さらに継続発展するものと確信できる。 ・取組は具体的かつ計画的であり、十分満足できる。 ・地域の方に声をかけてもらえることは大変ありがたいこと。今後も子どもが参画できる地域になることを願う。</p>
<p>評価Bは妥当である。 ・遊具の点検や修繕、万が一の想定を怠らず避難訓練を実施され、危機管理体制を整えていることが伺える。 ・感染症対策は幼児に負担になるが、子どもたちが自分で進んで手洗いやソーシャルディスタンスなど行えるように適切に指導されていることに感服した。</p>

